



鐵道 80 年

SKR信楽高原鐵道

昭和8年の鐵道開通により運搬が円滑になったことで、焼物の生産量は増え、信楽駅からは大小の火鉢が全国各地に送られていきました。

信楽線は第二次世界大戦中に運行が休止されたものの、昭和22年に再開。ところが昭和45年頃から、赤字ロー

カル線ということで廃止の危機に追い込まれました。住民は「信楽線を守る会」をつくり、何度も国や県、国鉄に申し入れを行い、利用推進運動を続けました。

そして昭和62年、信楽町や滋賀県などが資金を出し合い「信楽高原鐵道」として生まれ変わりました。



台風18号災害・復旧めど説明

昨年の9月15日から16日にかけての台風18号は、小野谷信号所（貴生川駅～紫香楽宮跡駅間）雨量計による雨量が、16日午前6時での連続雨量が285mmを記録しました。この雨により、信楽高原鐵道の軌道施設は、貴生川駅から733m地先の杉川橋梁の橋脚1本と橋桁2スパンが流出し、その他鐵道区間中の軌道敷への土石等の流入や法面崩壊、陥没・亀裂等大きく被災した箇所は25か所でした。

このことから、列車の運休をしいられ、現在代行バスにより代替輸送を行っています。

信楽高原鐵道は、平成25年4月1日から上下分離（公有民営）方式により施設財産は甲賀市が保有し、鐵道の運行を会社が行っていることから、今回の災害復旧事業は、甲賀市が事業主体で取り組まれます。

約7億円の復旧事業費は、国、滋賀県の補助金を受け、甲賀市の平成26年1月臨時会で予算措置ができたことから、復旧事業は3月以降順次進められます。これにより、鐵道の運行再開は平成26年12月をめざしています。

このことは、信楽地域はもとより、広く甲賀市民、滋賀県民等の皆様から復旧に向けての熱い思いが反映されたものであり、高原鐵道の安定経営に向け今後も我々地域住民が更なる利用促進を進めたいものです。

